



知財ビジネス評価書を活用

岐阜信金が初の融資

岐阜市の
2社対象 資金需要掘り起こす

岐阜信用金庫は2日、新たな資金需要を掘り起こす。製造の岐阜プラスチック工業(岐阜市)と、シリコン製品製造のタナック(同)に対し、企業が持つ特許や商標などの知的財産の競争力を評価する「知財ビジネス評価書」を活用した事業性評価融資を実行した、と発表した。

同様の融資は県内金融機関で初めて。取引先企業の将来性を見極め、担保に頼らない事業性評価融資を本格化

融資額は非公表。今回、東海3県の金融機関で初めて特許庁の知財金融促進事業・伴走型支援の採択を受け、

評価書を作成した。伴走型支援は、金融機関の各部署が連携して企業の知財戦略を進めるもので、評価書には、企業の知財や技術の優位性、経済的価値などが盛り込まれている。融資を受けた岐阜プラスチック工業は、1995年以降のグループ全体の特許出願が計800件以上ある。2009年には、自動車分野など向け熱可塑性樹脂のハニカムコア材「テクセル」を世界で初めて量産化。経済産業省の知財功労賞も受けている。

一方、タナックはシリコンや特殊ゲル製品を製造・販売。医療や健康、ヘルスケア、航空宇宙など今後成長が見込まれる分野で同

社の製品が活用されている。自社技術の管理面で特許出願を積極的に行っている。

両社とも知財を活用したビジネス戦略を積極展開し、融資による資金は特許の維持費などに充てる。岐阜信金は、評価書を融資の判断材料の一つとし、両社の知財がもたらす競争力や成長性を高く評価して融資を決めた。